

「音楽ブックトーク」学習活動案

平成 29 年 8 月 21 日(月) 10:20～11:05

対 象：東京学芸大学附属世田谷小学校

第 1 学年 2 組 35 名(男子 18 名 女子 17 名)

授業者：齊藤 豊(担任) 吉岡裕子(司書)

1. 活動名

音楽ブックトーク － 音楽で広がる絵本の世界「やさしいオオカミだっているんだよ」

2. 「音楽ブックトーク」について：

「ぼく、村上春樹を読んでるんだ！」と話しかけてきた 6 年生に「村上春樹を読んでるなら、ジャズも聴くの？」と私。そのときにはっと思いついたのがこの活動だった。これまでに読んだ本の中にも、音楽が小説の中で語られているものがある。たとえその曲を知らなくても物語を追うことはできるし、十分楽しめる。しかし、そこに描かれている曲を知っていれば、その物語の中に自分が入り込んで主人公に寄り添うことができたり、作者がそこに込めた秘密に気づくことができたりするかもしれない。本と一緒に音楽を鑑賞したら、これまでの鑑賞の授業をもっと楽しくできるかもしれない。

そう思って司書の吉岡と始めたのがこの「音楽ブックトーク」である。これまで様々な学年で、次のような「音楽ブックトーク」を子どもたちに実践してきた。

- ・物語のあらすじと、その中で鍵を握っている音楽と一緒に聴くタイプ
 - ・テーマに沿って、物語や音楽で綴っていくタイプ
 - ・キーワードをあげて、本や音楽でイメージを共有していくタイプ
- そして、絵本の中に具体的な曲が描かれていない今回の実践である、
- ・緩やかなテーマのもと、音楽を本や絵本と並べて紹介するタイプ

このようにいくつかの取り組みを通して、子どもたちがいつものブックトークとの違いを楽しんだり、音楽と一緒に本を楽しむという新しい読み方に興味をもったりしていくことを、その後の子どもの姿から感じている。これまで音楽にあまり興味をもてなかった子どもが、音楽が話題になっている本を借りて読む姿があったり、知らない曲に対する拒否反応が薄れ、曲に対する興味が高まったりする姿が見られた。この活動のねらいは、音楽に限らず、興味を広げていくことによって、自分の世界が広がっていくことを感じるのだと考えている。静かな図書館と音のあふれている音楽室が一緒になることで、これまでとはまた違った“読み方”“聴き方”を子どもたちがつかんでいくことを期待している。

また、この取り組みは「社会と連携・協働しながら、未来の作り手となるために必要な資質・能力を育む」ことを目指す新指導要領の中、音楽科の目標として掲げられている「音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽（、音楽文化）と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す」具体的な活動として提案できるのではないかと考えている。

3. 音楽ブックトークと1年2組の子どもたち

週1度の「メディアの時間」で子どもたちは、司書の金澤からお話を聞いたり、本を借りたりしてきている。今回の取り組みを前に、吉岡にはその時間に同行していただき、ブックトークや音楽ブックトークは、吉岡に入ってもらって実践をしてきた。子どもたちにとって吉岡は、本を紹介してくれる先生として存在している。メディアの時間は、専科の時間としてではなく、担任の授業を司書が手厚くサポートをしているというスタイルで行っている。

これまでに1年2組の子どもたちは吉岡と「たべもの」をテーマにしたブックトーク、「あめ・雨」をテーマにした音楽ブックトークを経験してきている。これらのブックトークを終えてからは、紹介された本を回して読み合ったり、借りたりしていく子どもたちが多くいた。

音楽ブックトークでは担任が音楽を聴くところで話をしたり子どもに問いかけたりした。今回も同様に音楽的などころで子どもたちと対話をしながら、音楽を聴く視点を明確にし、また子どもたちが音楽を聴いたことから感じたことを交流するつなぎでとなる。

今回のテーマ「やさしいオオカミだっているんだよ」と子どもたちとのつながりは、1学期に子どもたちが取り組んだ「どうぶつえん」(総合学習)の活動にある。子どもたちはその活動で、グループ毎に動物をつくって展示したり、つくったものを身につけて動物になったりしているところにお客さんを呼んで楽しんでもらい、大きな手応えを感じて1学期を終えている。そこで今回は、この活動につなげて「音楽ブックトーク」を実践しようと考えた。

4. 紹介した本と音楽

《組曲「動物の謝肉祭」より「終曲」》サン・サーンス 作曲 マルタ・アルゲリッチ Pf ギドン・クレーメル Vn 他 1985年.

『つんつくせんせい どうぶうえんにいく』 たかどの ほうこ 作・絵 フレーベル館 1998年.

《ワルツィング・キャット》 ルロイ・アンダーソン 作曲 エンメリヒ・シュモーラ 指揮 南西ドイツ放送管弦楽団 「平成27年度版 小学音楽 おんがくのおくりもの1・鑑賞」2015年.

『ゴリオとヒメちゃん』 アンソニー・ブラウン 作・絵 久山 太市 訳 評論社 2009年.

『かちかちやま』 赤羽 末吉 絵 小澤 俊夫 再話 福音館書店 1988年.

《ピーターと狼 作品67より「狼あらわる」》セルゲイ・プロコフィエフ 作曲 イツァーク・パールマン 語り ブービン・メータ 指揮 イスラエル・フィルハーモニック管弦楽団 1982年.

『うさぎのおいしい食べ方』 きむら ゆういち 作 山下 ケンジ 絵 講談社 2003年.

『赤ずきん』 フェリクス・ホフマン 画 大塚 勇三 訳 福音館書店 2012年.

『おおかみと七ひきのこやぎ』 グリム童話 作 フェリクス・ホフマン 絵 瀬田 貞二 訳 福音館書店 1967年.

『どうぶつえんガイド』 あべ 弘士 作・絵 福音館書店 1995年.

『ともだちくるかな』 内田 麟太郎 作 降矢 なな 絵 偕成社 1999年.

『あいつもともだち』 内田 麟太郎 作 降矢 なな 絵 偕成社 2004年.




『オオカミくんはピアニスト』 石田真理 作・絵 文化出版局 2008年.

《花のワルツにもとづくパラフレーズ》 パーシー・グレインジャー 作曲 マーティン・ジョーンズ Pf 1989年.

5. 活動のねらい

自分たちの活動につなげて、動物をテーマにした本を楽しんだり、動物のイメージを描きながら音楽を聴いたりすることで、曲想をとらえながら主体的に音楽を聴くことができる。

6. 本時の流れ





学習活動	●指導上の留意点 ★評価
<p>1. 「音楽ブックトーク」に誘う</p> <p>○ この曲を聴いてどんな気分になるかな？</p> <p>♪ 《動物の謝肉祭》よりフィナーレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくする ・遊園地みたいで賑やか ・サーカスが始まるよって感じ <p> 『つんつくせんせい どうぶつえんにいく』 (読み聞かせ)</p> <p>2. 曲想と動物の様子をむすぶ</p> <p>○ この曲の猫はどんな猫かな？</p> <p>♪ 《ワルツィング・キャット》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お城にいる猫みたい、だって豪華な感じがしたから ・ふかふかの絨毯の上で踊っていると思う。ゆっくりな曲だからふかふかしている絨毯のイメージがした ・スケートしている猫。(旋律が) 流れるような曲だから、すうっと氷の上を滑っているように感じた ・しっぽが長い猫だと思う。“にゃ～お”って聞こえるところで、猫がなきながらしっぽをくしゃっとしてるみたいだから <p> 『ゴリオとヒメちゃん』(物語紹介)</p> <p> 『かちかちやま』(物語紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきって悪いけど、ウサギの方がもっとひど 	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマについての想像を楽しめるように提示する <ul style="list-style-type: none"> ・曲想からどのようなイメージを感じたかを交流し、ブックトークのテーマと音楽をつなぐ手がかりをつかめるようにしたい ● お話を楽しめるよう、絵が見えるように提示する <ul style="list-style-type: none"> ・細かいことを指示せず、お話が進むにつれて子どもたちが物語に入ってもらえるようにする ● 1学期の活動をふり返りながら、動物の気持ちや、その動物らしさを引き出す ● 音色や旋律、音楽の速さから感じる猫の姿を交流し、曲を聴く手がかりをつかめるようにする ● 場面が一転してゴリラがこのあと仲良しの猫のヒメちゃんとどうなっていくのだろう、という期待をもてるように紹介する ● 動物が悪者としてイメージされるお話を紹介する。とくに悪者としてイメージさ

いと思うなあ

○ これはどんな動物に聞こえるかな？




♪ 《ピーターと狼》より「狼あらわる」

- ・怖い感じがするからトラかなあ
- ・ホラー映画みたい。だんだん近づいてくる感じがするもの

-  『うさぎのおいしい食べ方』（物語紹介）
-  『赤ずきん』（物語紹介）
-  『おおかみと七ひきのこやぎ』（物語紹介）
-  『どうぶつえんガイド』よりオオカミ
(場面提示)

3. 物語と音楽をむすんでイメージを広げる

○ やさしいオオカミっていないのかな

-  『ともだちくるかな』（本紹介）
-  『あいつもともだち』（本紹介）
-  『オオカミくんはピアニスト』（読み聞かせ）
♪ 《花のワルツにもとづくパラフレーズ》

○ オオカミくんは、このあとどのような曲を弾いてあげるのだろうか

れているオオカミに焦点が徐々にあたるように本の紹介を進める

- 子どもたちと対話をしながら、音色と動物のイメージがつながるようにする。また、音を出している楽器の写真を提示し、より興味をもって聴けるようにする
- ★ 曲想と描かれているオオカミの姿をつなげて聴くことでイメージが広がり、音楽を楽しんでいる

- 悪者として描かれているオオカミが登場する物語を紹介する

- オオカミを紹介する本を提示し、オオカミの本来の姿を知ることができるようにする

- 優しい心のオオカミを紹介しつつ、場面から聞こえてきそうな音楽を鑑賞できるようにする

- 読み聞かせの流れの中に音楽を入れる

- 最後の問いかけのあとは、交流を促さず、それぞれが物語の続きを想像できるようにしたい